

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

『舞岡のまちとともに、未来を拓き、成長する生徒・学校をめざします。』

- 知 自ら学び、課題を解決
- 徳 認め合いと人権の尊重
- 体 心技体の向上
- 公 地域・社会へ自ら参画
- 開 視野を広げ、夢の実現

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

主体的に学ぶ力と課題解決能力

多様な社会の中で共に生きることに必要な コミュニケーション能力

具体化した資質・能力

- 自ら振り返り、課題を見つける力
- 計画的に課題解決に取り組む姿勢と粘り強さ
- 社会生活の中での協調性と自己表現

中期取組目標

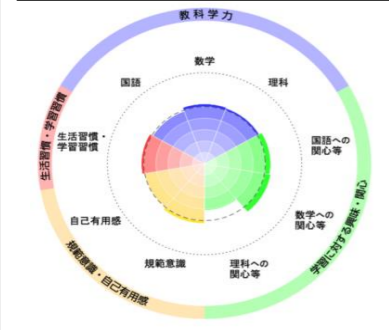
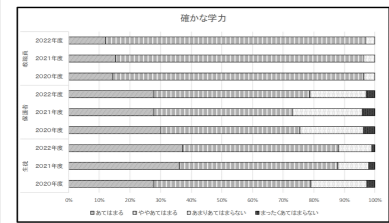
- 「チーム舞岡」として全教職員が協働して活力と魅力にあふれた学校づくりをめざします。
- 学習の基礎基本の確実な定着と、思考力・判断力・表現力を伸ばすために言語活動の授業を推進しています。
- 授業や学校行事、自治的活動を通して、生徒の自己肯定感を育て、思いやりの心や人権意識を育てています。
- 健康や体力に関心をもち、体力向上一人一実践の推進により、生活の中で健康・体力づくりに取り組んでいます。
- 小中一貫教育を推進し、家庭・地域と協力して社会の要請や信頼に応えた学校づくりを進めています。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①毎回の授業でめあてとまとめを提示し、生徒が自主的に見直しをもって学べる授業づくりを進めます。 ②ブロック等の交流や研究を深め、児童生徒の引き継ぎで学びのつながりを進め、学力の基礎基本の定着と言語活動の充実を図ります。
担当	教育課程委員会 ①研修や校中検討を重ね、学習指導要領の理解を深め、学習の指導と評価の改善を図ります。

学力向上に関わる本校の状況

学校評価のアンケートでは比較的多くの生徒が掲示された本時の目標を意識し、積極性をもって取り組んでいることがわかる。また、市学状の結果を見ると学力は平均と同じ程度の結果である。また、学習意識も市の平均と同じ程度の結果が見られた。生活意識では市の平均よりやや劣る部分が見られた。今後も学力の向上もふまえて、生徒の関心や意欲を高められる授業づくりを目指す。



今年度の目標

生徒自らが積極的に課題を見つけ、解決に向かう姿勢を育てる。多角的な視野をもって物事をとらえ、思考・判断・表現できる力を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ①授業の始まりには「本時の目標」を生徒に提示し、見直しをもった学習を促す。
- ②授業の終わりには「本時のまとめ」を行い、学びの定着を目指す。
- ③小中ブロックの協議会等を利用して、小中の学習のつながりを深める。
- ④言語活動を大切に、積極的に授業に参画することで高めあいの場をつくる。
- ⑤毎月の教科会で、指導と評価の検討・情報交換を行い、共通理解を深める。
- ⑥ICT機器を活用し、様々な視点から課題と向きあい、考える環境を整える。

- ①授業の始まりには「本時の目標」を生徒に提示し、見直しをもった学習を促す。
- ②授業の終わりには「本時のまとめ」を行い、学びの定着を目指す。
- ③小中ブロックの協議会等を利用して、小中の学習のつながりを深める。
- ④言語活動を大切に、積極的に授業に参画することで高めあいの場をつくる。
- ⑤毎月の教科会で、指導と評価の検討・情報交換を行い、共通理解を深める。
- ⑥ICT機器を活用し、様々な視点から課題と向きあい、考える環境を整える。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①人権意識の育成のために道徳の授業を充実させ、また、学校の教育活動全体を通じて指導します。 ②人権講演会や人権標語コンクールを実施して、豊かな心の成長に努めます。 ③生徒の実態に即した教材を研究、活用し、実生活との関連を重視した取組を充実させていきます。すべての教科等で命・心・夢を大切に育む道徳・人権に関連した授業を実施します。
担当	道徳・人権・福祉推進委員会

豊かな心に関わる本校の状況

・YPアセスメントの調査によると、何事にも一生懸命に取り組む生徒が多いことがうかがえます。一方、自己肯定感の低い生徒、または他者とのコミュニケーションに課題を抱えている生徒がいることも事実です。

・教育活動の一環である部活動の参加率も高く、内容も非常に充実しています。

今年度の目標

授業や学校行事、自治的活動を通して、生徒の自己肯定感を育て、思いやりの心や人権意識を育てます。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ・道徳教育の要として、各教科との横の連携を図りつつ、ローテーション道徳を行うことで、計画的・発展的かつ多角的な視点から自己肯定感を高める意識を持たせます。
- ・各教科や行事に応じて、子どもの実態に即した教材を吟味し活用していくことで、生徒の豊かな人権感覚、他者を思いやる心を育てます。
- ・多様性、LGBTQIについての職員研修を行います。下半期(11月)に実施予定の人権講演会に向けて内容を理解して生徒に正しく伝えられるようにします。
- ・地域や保護者の協力のもと、キャリア教育(職業講話・職業体験)を充実させ、直接体験による心の育成をすすめていきます。

- ・「命 人権・福祉 国際」をテーマとして、毎年、講師を招いて人権講演会を実施しています。生徒の心に届く講話をしていただくことで、自尊心を高めることや自己肯定感の向上を図ります。
- ・人権標語コンクールを実施し、豊かな心の成長に努めます。
- ・職員研修で学んだ内容を深めたり、学区の小学校と連携して同じテーマについての情報共有を行います。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①新体力テストの結果を生徒各自が考察し、体力向上に向けた取り組みを実践する態度を育て、継続させます。 ②保健体育の授業で、準備運動に体づくりのトレーニングに全員が取り組み、体力の向上を図り、継続させます。 ③体育大会に向けた昼休みの大縄やリレーの練習を通して、集団行動や運動技能を身に付け、体力の向上を図ります。
担当	保健体育科・体委委員会・家庭科 ① 継続させます。

健やかな体に関わる本校の状況

○本校の運動部活動生徒の加入率は比較的高く、ほとんどの生徒は毎日のように活動しており、運動の機会が少ないとは思われない。運動部の活動による体力の向上への効果は最も大きいと考えられる。

○体格的には、身長では1・2年男子は県平均を下回っているが、それ以外は上回っている。体重は、3年生は男女ともに上回っているが、それ以外は下回っており、身長に対して体重が軽い。
○規則正しい生活習慣や学校生活への取組、衛生面などにおいても著しく劣っていると考えられる面は見受けられない。朝食の摂取の割合は、全国平均に比べ、良い傾向にあるが、上級生(特に3年の女子)は、朝食を抜くことがある。8割以上の生徒が毎朝朝食を食べてきているが、残り2割の生徒は朝食を食べない生徒がどの学年でもいるのが現状である。(アンケート結果より)

今年度の目標

生徒自身が自分の体力や健康について目標を定め、保健体育の授業や部活動、体育的行事、日常生活の中で体力向上を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ・年度初めの新体力テストの結果を生徒各自が考察し、体力向上に向けた取り組みを自らの生活の中で実践していく態度を育てる。
- ・毎時間の授業開始時の準備運動において、体づくりトレーニングに全員が取り組み、体力の向上を図る。
- ・体育大会では昼休みを活用した大縄やリレーなどの練習を通して、集団行動や運動技能を身に付け、体力の向上を図る。
- ・体育委員会において、昼休みにボールの貸し出しを行い、運動に親しむ場をつくる。
- ・家庭科では食育との連携を図り、心身の健康の保持増進を図る。
- ・食育推進ネットワーク校として近隣小学校栄養教諭との連携を図り、食育の推進を図る。

- ・年度初めの新体力テストの結果を生徒各自が考察し、体力向上に向けた取り組みを自らの生活の中で実践していく態度を育てる。
- ・毎時間の授業開始時の準備運動において、体づくりトレーニングに全員が取り組み、体力の向上を図る。
- ・体育委員会において、昼休みにボールの貸し出しを行い、運動に親しむ場をつくる。
- ・学年ごとの球技大会では、昼休みを活用した練習を通して、集団行動や運動技能を身に付け、体力の向上を図る。
- ・家庭科では食育との連携を図り、心身の健康の保持増進を図る。
- ・食育推進ネットワーク校として近隣小学校栄養教諭との連携を図り、食育の推進を図る。